

[成果情報名]オウトウ品種「紅秀峰」は垣根仕立て栽培への適応性が高い

[要約]オウトウの垣根仕立て栽培において、結実性の高い「紅秀峰」は適応性が高く、密植することで、立木仕立てよりも多くの初期収量が見込める。

[キーワード]オウトウ、紅秀峰、垣根仕立て

[担当]岩手農研セ・技術部・果樹研究室

[代表連絡先]電話 0197-68-4419

[区分]東北農業・果樹

[分類]研究成果情報

[背景・ねらい]

オウトウの垣根仕立て栽培は、立木仕立てよりも樹体がコンパクトであるため、密植が可能であり、管理作業の省力化も期待できるが、岩手県での適応性は十分確認されていない。そこで、豊産性品種である「紅秀峰」を用い、岩手県での垣根仕立て栽培への適応性を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 植栽距離を列間 2.5m×樹間 2.5mとした「紅秀峰」の垣根仕立て栽培は、立木仕立てよりも 10 a 当たりの初期収量が多く見込める（図 1、表 1）。
2. 垣根仕立て栽培における果実品質は立木仕立てと同等である（表 2）。
3. 垣根仕立て栽培では、立木仕立てに比べ夏期管理（摘心）の作業時間が多くなるが、整枝剪定の作業時間が少なくなることから、合計した作業時間は概ね同等である（表 3）。果実 10kg 当たりの収穫時間は、いずれの仕立て方とも同程度である（表 3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 垣根仕立て栽培は、植栽 6 年後の成園化が可能である。成園後は必要に応じ間伐を実施する。
2. 垣根仕立て栽培は樹高が 3 m 程度で作業者の危険度や身体的負担が低いため、観光果樹園での利用や女性、高齢者にも適する。

[具体的データ]



図1 成園時の樹体の状況(左：垣根仕立て、右：立木仕立て)
注) 垣根仕立ての側枝は、50cm 間隔で支線に水平誘引した

表1 「紅秀峰」の10a 当たり初期収量 (単位：kg)

仕立て法	植栽距離 (列間×樹間)	植栽本数 /10a	年次			計
			2011	2012	2013	
垣根	2.5×2.5m	160	48	112	2,368	2,528
立木	5×2.5m	80	0	64	1,328	1,392

注)定植年：2007年 垣根仕立て：ハイオスパー6台木、立木仕立て：アハサクラ台木

表2 「紅秀峰」の果実品質

仕立て法	果重(g)				糖度(Brix%)			
	2011	2012	2013	平均	2011	2012	2013	平均
垣根	8.5	8.0	6.5	7.7	19.9	17.1	14.5	17.2
立木	8.9	8.4	6.1	7.8	17.8	20.5	14.3	17.5

表3 「紅秀峰」成園時の主要作業時間

(2013年 整枝剪定・夏期管理：10a 当たり^{z)}、収穫：10kg 当たり)

仕立て法	整枝剪定 [A]	夏期管理 (摘心) [B]	[A] + [B]	収穫
垣根	38 時間 24 分	24 時間	62 時間 24 分	1 時間 26 分
立木	57 時間 12 分	11 時間 12 分	68 時間 24 分	1 時間 38 分
対比 ^{y)} (%)	67	214	91	88

z) 10a 当たり植栽本数を以下の場合として算出

垣根仕立て：80本 立木仕立て：40本

y) 垣根/立木×100

(及川耳呂)

[その他]

研究課題名：岩手県におけるアウトウの垣根仕立て栽培法の確立

予算区分：県単

研究期間：2008-2013 年度

研究担当者：及川耳呂